



2008年9月3日
 発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 杉崎太吉
 所在地 町田市相原町 798-1
 電話 042 (774) 8005

盛大に開かれた相原駅開業100周年フェスタ



横浜線開通・相原駅開業100周年を祝うイベントが9月23日に開かれました。当日は、好天にも恵まれ多くの相原住民に参加していただき、盛大に行うことができました。同フェスタは、相原まちづくり協議会が事務局になり、相原地区連合町内会、(財)相原保養会、相原中央公園建設促進委員会、青少年健全育成相原地区委員会、スポーツ広場運営委員会、町田市老人会境支部と一緒に横浜線開通・相原駅開業100周年実行委員会(杉崎太吉委員長)を組織して実施したものです。

メイン会場は駅西口広場で行いました。相原鼓笛隊による行進のあと、舞台では午前10時から記念式典がありました。杉崎太吉実行委員長のあいさつのあと、岩崎治考・町田市副市長、井上正行・市議会議長等の来賓のあいさつがありました。この後、交通評論家のサトウマコトさんから「横浜線100年」の講演会がありました(講演内容は5面に)。

午前11時半から相原幼稚園の合唱、大戸小学校の合唱、相原小学校音楽クラブの合唱、同2年2組のダンス、堺中学吹奏楽部の演奏、陽田雛子保存会の雛子、武蔵岡中学吹奏楽部の演奏、福前体操の健康体操・キッズダンス、堺中学日本文化部の和太鼓演奏、あすなる会の大正琴・尺八、東京家政学院大学吹奏楽部の演奏、雅武者の和太鼓演奏がありました。

最後に「ひよこ豆」の演奏と歌があり、観客と一緒に「夕焼け小焼け」を合唱して終わりました。

西口広場では子ども用の「ふわふわドーム」のほか、各種の模擬店が出ました。

東口広場ではミニSLを走らせました。子どもを乗せて煙を吐きながら一周しま

す。子どもに大人気でした。

同じ東口広場で「子ども手形陶器プレート」の作成を行いました。希望者が多く、開店する前から、親子ずれの長い行列ができました。300名と限定されているため、整理券を渡して対応しました。粘土の手形プレートは天日干しにした後、大地沢の窯で、1回30時間をかけて焼きました。完成したものは西口広場にできる予定のモニュメントに張って保存する計画です。

駅東口階段の壁に横浜線・相原駅写真展、西口側階段の壁に「夕焼け小焼け」展や昔の相原の写真を展示しました。多くの人たちが、懐かしい駅舎や電車の写真に見入っていました。また、「夕焼け小焼け」展では、童謡「夕焼け小焼け」を作詞した中村雨紅が相原町と関係が深いことを初めて知る人も多く、興味深く見ていました。写真展は9月21日～9月28日まで展示しました。

橋上駅の通路では故・荒井秀雄さんが制作した明治41年の開通当時そのままの大戸踏切付近に機関車・客車・貨車が境川の鉄橋にさしかかる状況と駅付近の構造物を再現した模型を展示しました。イベントの参加者だけでなく、多くの駅乗降客も見ていました。

横浜線開通、相原駅開業100周年

写真集



昭和15年頃の相原駅



駅前にサンクスがあった頃



カラフルな103系



お風呂やさんがありました



ロケ地にもなった風景



さよなら73型



東口駅前



橋上駅の出来る少し前



構内に踏み切りがありました



なつかしい40型



下りホームから改札を見る



相原にも水田がありました



単線のため相原駅で交換

写真提供
押田源次様
押田廣年様
津田光康様
上村茂樹様
保坂敏行様
杉崎太吉様
大谷博夫様
73102様 他

相原駅100周年

検索

横浜線開通・相原駅開業100周年

写真集



相原幼稚園の合唱



天気に恵まれました



相原駅とふわふわドーム



陽田囃子保存会



写真の展示



堺中学の和太鼓



東口広場を走るミニ&B



武蔵岡中学の吹奏楽部



堺中学吹奏楽部



陶板作成のメンバー



キッズダンス



昔の相原駅の模型



陶板手形



雅武者の太鼓



ひよこ豆の歌でしめくり



荒井さんの作成した相原駅の模型

当時は貨物量で沿線一位の相原駅でした

交通評論家・サトウマコト氏の講演内容は以下の通りです。

以前、相原町に来たときに、たまたま車で通りかかって荒井秀雄さんの横浜線開通当時のミニチュア蒸気機関車と客車、貨車を見せてもらいました。今、堺市民センターに置かれ、みんなが見られるようになっていると聞きます（現在、武蔵岡小学校に）。このような貴重なものが残っているのは相原だけです。当時をほうふつさせてくれる、大変な財産です。横浜線は明治41年9月23日に開通しました。八王子に集まった生糸を横浜港に運ぶため、地域でお金を出し合って新設した私鉄です。横浜線の建設は明治28年に申請しましたが、当時、政府は富国強兵をとっているため、なかなか許可しませんでした。5度目の申請で、やっと許可されました。

< 雑感 >

9月23日は台風の接近などで前日まで雨が降り、当日の天気は心配されましたが、朝から台風一過のような青空で、ホッとしました。相原駅は、自動車が普及するまでは鉄道が唯一の移動手段であり、相原住民の玄関口として100年の歴史を刻んできました。われわれはイベントに展示するため明治、大正、昭和の駅周辺の写真を集めようと思いました。しかし、戦前の写真の入手の難しさをつくづく感じました。戦前は一般の人はカメラを持っていませんから、写真といえば記念写真が中心です。「あいとぴあ」で写真を募集しましたら、中村地区の押田源次さんから、昭和15年、16年頃の駅の写真の提供がありました。昔の駅舎、駅前に日の丸の国旗、駅から降りてきた学生、うしろの山も写っています。これは、太平洋戦争に出征する人に持たせた写真とのことでした。多分、戦場で、この写真を見て、相原の故郷を思い出していたに違いありません。それだけ駅は町のシンボルだったのではないのでしょうか。この写真は貴重なもので、今回のイベントのポスターに使わせてもらいました。

「夕焼け小焼け」展は大きな反響を呼びました。まちづくり協議会では「夕焼け小

大正6年に国が買い上げ、国有化になりました。相原駅は津久井郡から蒔（まき）炭、木材、農産物を運び出す駅でした。相原駅は貨物の出荷量では沿線だんとつ一位でした。

相原の鉄道に関することでは大正から昭和にかけて、南津（なんしん）電気鉄道構想がありました。これは聖蹟桜ヶ丘 - 鎌水 - 相原 - 津久井を結ぶ路線です。途中まで線路が敷かれましたが、昭和恐慌に遭遇して実現しませんでした。

寒川にある砂利を東京に運んで売り、その力ネで相模原線は昭和6年に橋本駅まで開通しました。ガソリンカーを導入の時に八王子駅まで乗り入れました。八王子から茅ヶ崎の海水浴に行くことが出来るようになり、好評でした。

「焼け研究会」を立ち上げたばかりであり、これから、さらに研究を続ける予定です。今回の展示に当たり、八王子市にある「夕焼け小焼けの里」や、中村雨紅が養子にきた中相原の中村家の富江さんに、お会いして、お話を伺いました。また、中相原の北島一夫さんから話を聞く機会がありました。

中村雨紅は厚木市の高校の先生をして、厚木市で亡くなっています。このため、厚木市では夕焼け小焼けの碑をたて、中村雨紅の童話などを出版しています。厚木市中央図書館には、郷土の文化人として、作家・和田伝と中村雨紅のコーナーがあります。多くの雨紅の文献や写真が展示してあります。

これに対して町田市は雨紅に関する資料はなにもありません。せめて、将来、堺市民センターに雨紅コーナーを設けてもらうよう、研究成果を積み重ねていきたいものです。



中村雨紅

大盛況だった「相原ふれあいフェスティバル」

「みんな集まれ相原人間大集合」をテーマに相原地区連合町内会主催の「相原ふれあいフェスティバル2008」が10月12日、相原中央公園で開かれました。今年は町田市制50周年でもあり、記念事業の1つとして特設展示ブースも設けました。当日は晴天で中央公園が家族ずれの相原住民で埋め尽くされ楽しい1日を過ごしました。約7800人の参加者がありました。

メイン会場は芝生広場で、奥に舞台が設置され、多くの模擬店が並び、フリーマーケットも開設され、ふわふわドームも設置されま



した。舞台では吹奏楽演奏、民謡、和太鼓、ダンスなど各種の催しが行われました。多目的広場ではスポーツ、日曜大工など多くのイベントがありました。作業棟西側では、坂下、陽田、中相原、大戸の囃子がありました。最後に自転車や米などが当たる抽選会がありました。

・・・相原を守る消防団・・・

第5部(中相原)の詰め所と第4部(仲町)の消防車と照明車が新しくなりました。



国鉄が民営化して二十一年になります。今年三月にJR東日本は、グループ経営ビジョン「2020」を発表していますが、そのなかで、私たちは国鉄の失敗を繰り返さないため、改革の理念を忘れてはいけない」として、その一つに「それぞれの地域と密着した経営」を掲げています。しかし、相原駅を管轄するJR東日本八王子支社の言動をみると、この崇高な経営理念とは、およそかけ離れていると云わざるを得ません。というのは、今回の相原駅開業一〇〇周年記念フェスタについて、八王子支社は最初から非協力的でした。JRにフェスタの協賛をお願いしたら、市の協賛がなければできないというのです。フェスタは地元あげての市民手作りの取り組みであることを説明しても、協賛に了承しませんでした。JRが作成した横浜線開業一〇〇周年記念のパンフレットで沿線駅での記念イベント行事予定が掲載され、橋本駅、町田駅の行事は取り上げていましたが、相原駅のフェスタは一行も掲載されませんでした。記念式典に相原駅長(八王子みなみ野駅長が兼ねています)の出席を要請しましたが、出席しませんでした。JR駅の一〇〇周年を地元の人が祝う記念行事ですから、本来は率先して参加するのが常識ですが、なぜ、出席できないのか、理解に苦しみます。結局、JR関係者は誰も来ませんでした。民営化して二十一年たつても、地元をまったく無視した国鉄以上の官僚体質にあきれるばかりです。

ただし相原駅職員の方々は大変協力的でした。

編集後記